

# 研究者にとっての データの意味と 大学における データ管理への期待

慶應義塾大学

倉田敬子

# 研究者にとってのデータ

収集, 分析に  
費用も時間も  
かかっている

データは  
「私」のもの

雑誌の方針に従  
い論文投稿時に  
データも公開

調査した者に  
しか  
理解できない

データ共有は  
科学の発展に  
貢献

データの標準化  
もツールの共有  
もなされている

一定の調査  
参加がデータ  
利用の条件

国の政策とし  
て共有データ  
ベース作成

他人のデータよ  
り自分で調査し  
た方が確実

# 行動と意識の多様性

- データ公開に積極的な研究者と否定的な研究者
  - 意識が高いか低いかなのか？
  - 分野による違い？
  - 投稿雑誌，助成機関の方針？
  - 年齢，業績？

# 阻害要因と推進要因

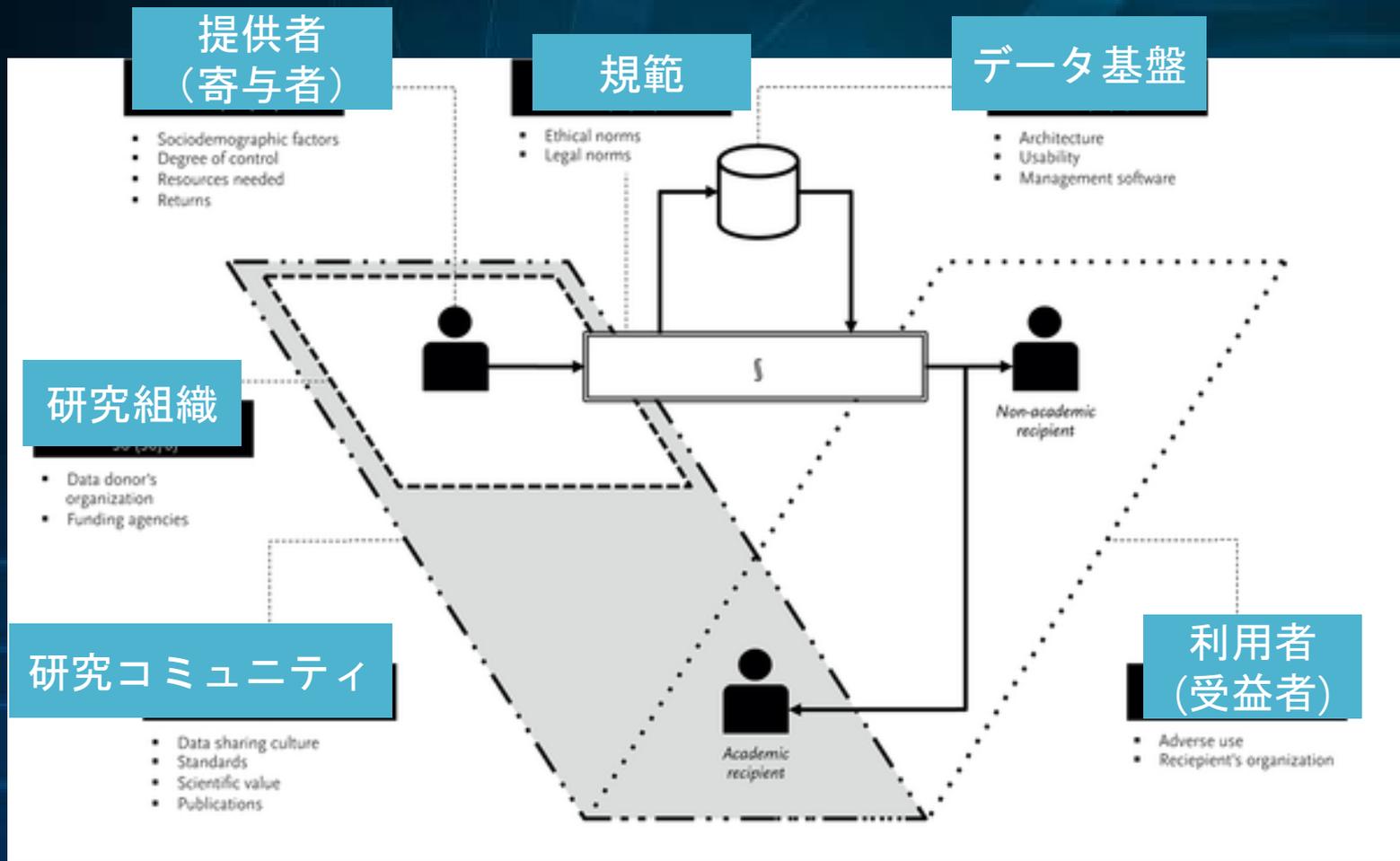
- Fecher等の研究

システマティックレビュー(98論文)

SOEP(独)パネルデータ利用者調査

公開の意思／動機／阻害

# 阻害要因と推進要因



Fecher B, Friesike S, Hebing M (2015) What Drives Academic Data Sharing?. PLOS ONE 10(2): e0118053.  
<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0118053>

# 研究者意識・行動のモデル化

[対象]自然科学分野日本人研究者23人

[方法] インタビュー調査

- 研究活動とデータ/データ共有への意識など
- 内容（言説）を分析
- 研究データに関する406件をクラスター分析
- 14クラスターを5グループに分類

# 研究者意識・行動のモデル化

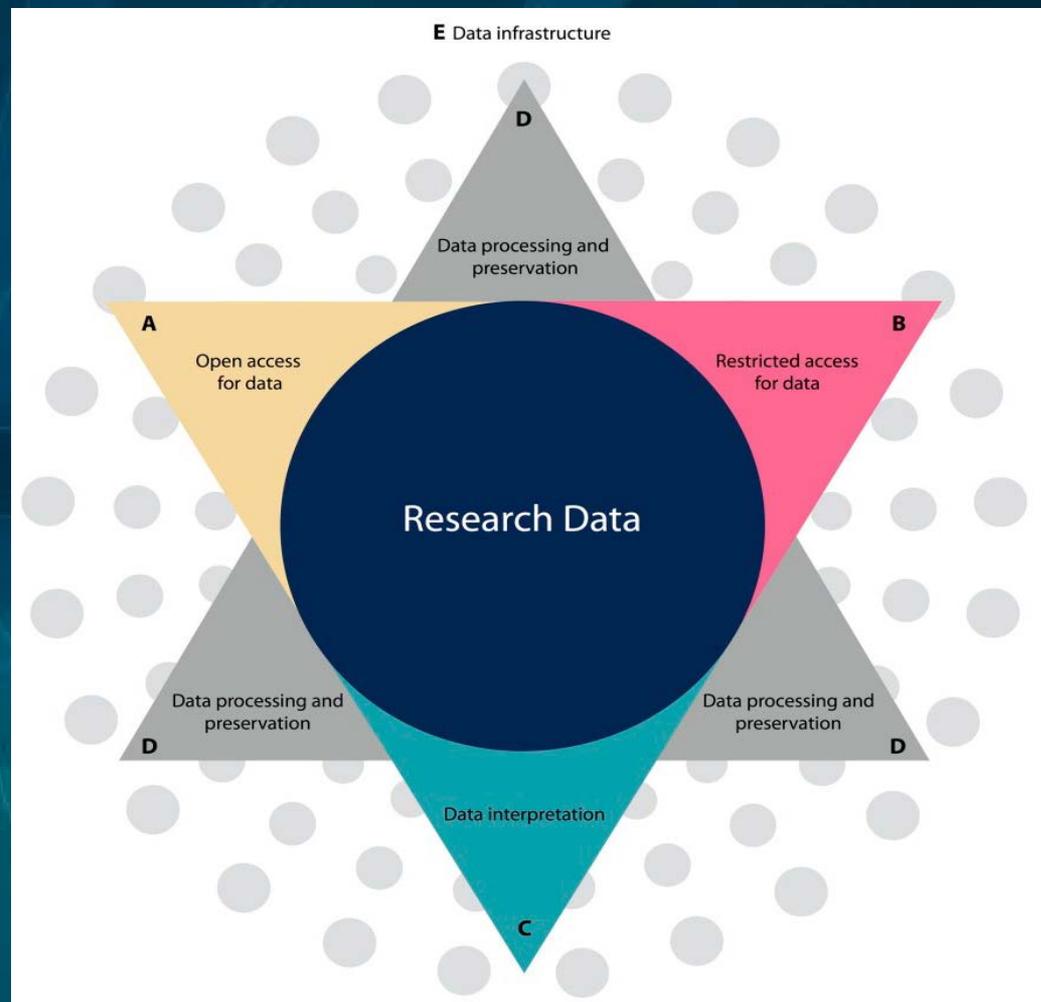
オープンな立場

意味づけの問題

閉鎖的な立場

データ処理, 分析, 保管

データ基盤



Keiko Kurata, Mamiko Matsubayashi, and Shinji Mine. DOI: 10.1177/2158244017717301

Identifying the Complex Position of Research Data and Data Sharing Among Researchers in Natural Science. SAGE Open. 2017.

# なぜ複雑，多様になるのか

- 「データ」とは何なのか？

調査データ，実験データ

調査対象者情報，実験機器データ

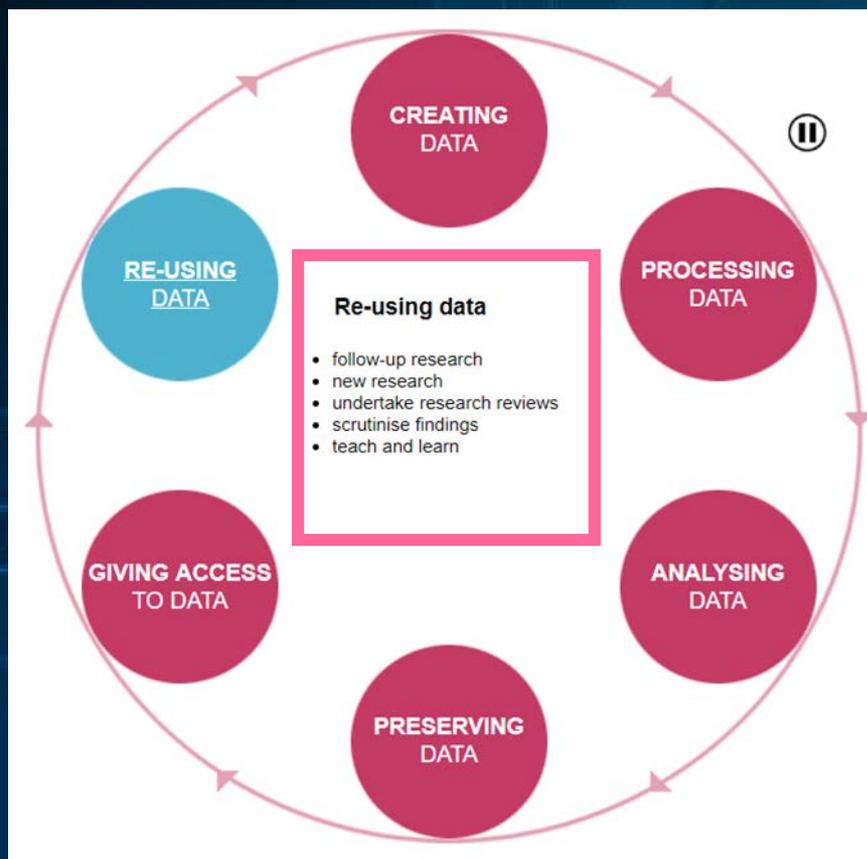
ソフトウェア，プログラム

会合記録，配付資料，スライド

アイデアのメモ……………etc.

# なぜ複雑，多様になるのか

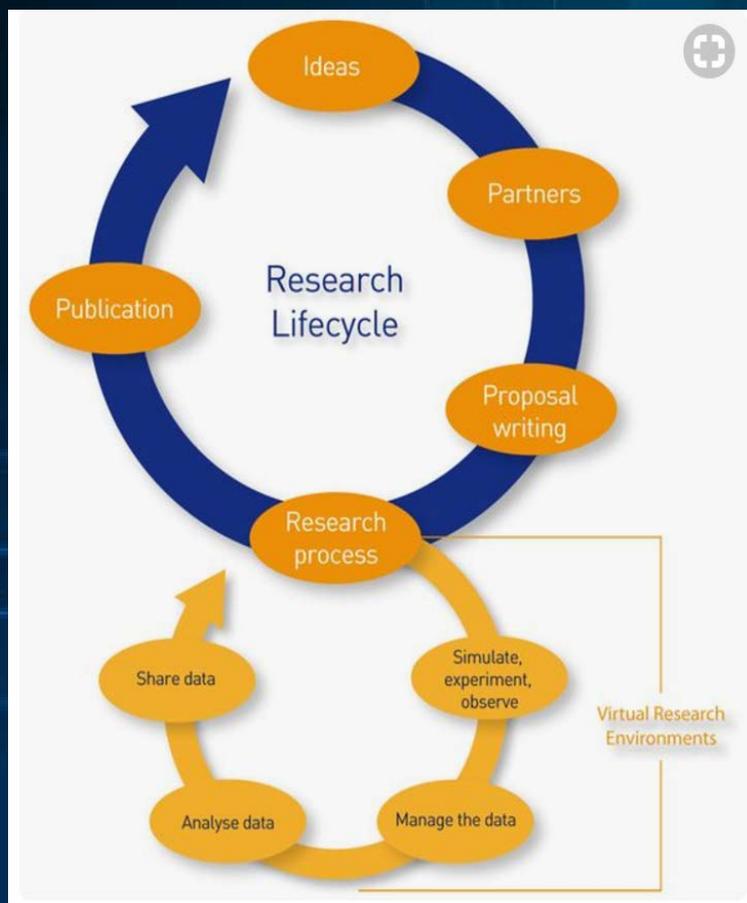
## ●「データ」と研究の不可分な関係



- データから見た研究プロセス
- データ再利用がなされる研究段階を真ん中に記述
- 研究プロセスの段階とは異なる

# なぜ複雑，多様になるのか

## ●「データ」と研究の不可分な関係



- 研究プロセス中心
- データが「研究実施」段階でしか明示されていない
- データの段階がうまく表示できていない

# 何をどう支援できるのか

- 研究データ管理には研究プロセスへの理解が必要
- 研究支援全体の文脈の中で、研究データ管理を考える必要



大学は研究データについて何を行っているのか

# 大学における研究データの 管理，保管，公開

## ●2016年3月実施の調査結果紹介

情報管理.2017, vol.60, no.2, p.119-127

[対象]大学・研究機関494→151回答(30.6%)

[設問]

①オープン化への認識      ②OA化状況

③研究データ保存ガイドライン制定

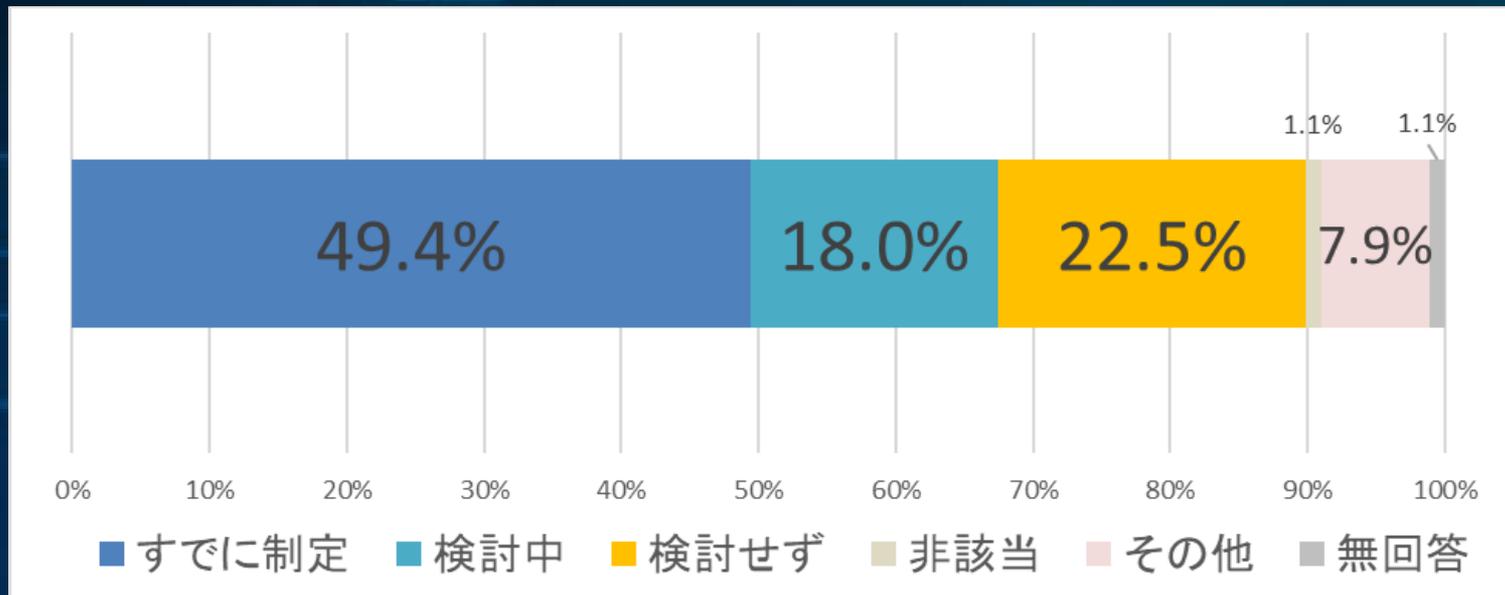
DMPの現状・支援

研究データ用プラットフォーム整備状況

データ公開方策の今後の可能性

# 大学における研究データガイドライン

- 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年度文部科学大臣決定)への対応 (大学のみ, N=89)



# 研究データ管理計画 (DMP)

## ●DMPの作成の義務化

選択肢	大学 N=89	研究機関 N=59
研究データ管理計画の提出を義務付けている	0%	0%
研究データ管理計画の作成を推奨している	10.1%	15.3%
自機関の状況を把握していない	39.3%	15.3%
研究データ管理計画を知らない	36.0%	49.2%
その他	13.5%	18.6%
無回答	1.1%	1.7%
	100.0%	100.0%

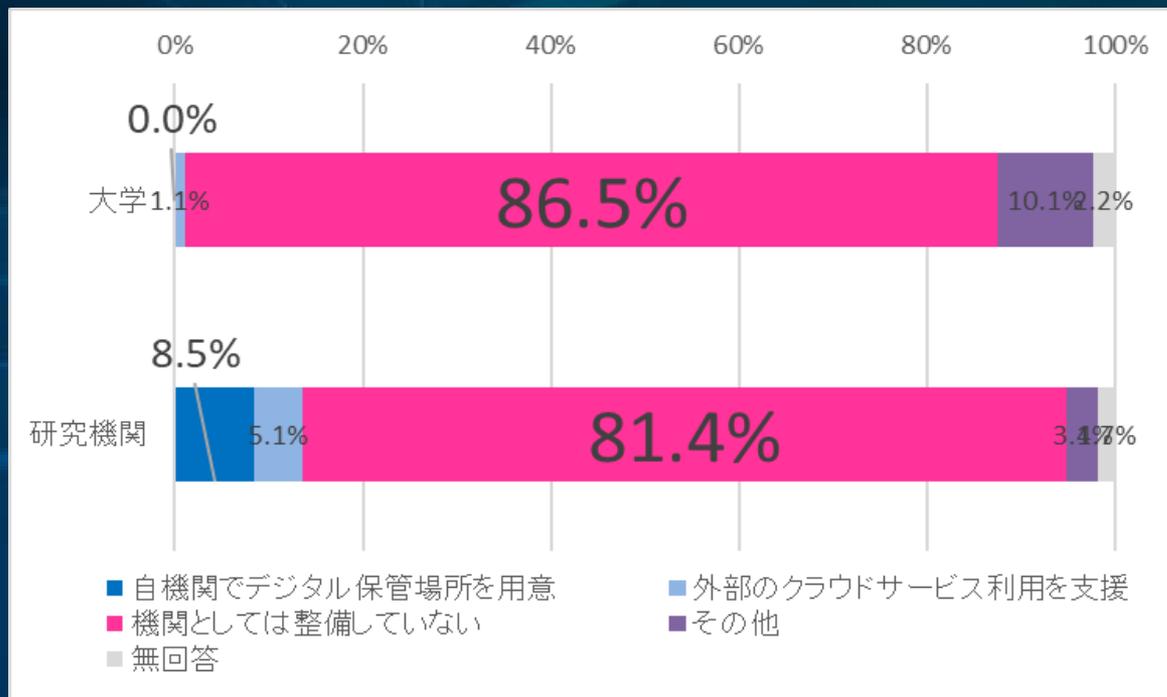
# 研究データ管理計画（DMP）

## ●DMPの作成への支援

選択肢	全体 N=151
研究データ管理計画（書き方など）に関する説明会，相談を行っている	2.6%
説明会や相談は行っていないが，海外の大学・研究機関のサイトなどの情報は提供している	2.0%
特に何も行っていない	43.0%
自機関の状況を把握していない	6.6%
その他	4.6%
無回答	41.1%
	100.0%

# プラットフォーム整備

- 研究者が自分の研究データを保管、公開するために利用出来るプラットフォームなどを整備していますか



# まとめ

- 低い回収率→担当部署がない
- オープンデータに関連する知識がない
- データの保管は「研究不正」の文脈としてしか認識していない
- 保管場所の提供もなく，何らのサポートもなされていない

# 図書館に何ができるのか

- 伝統的な図書館業務と見なされない



新しい役割の可能性

- ① Embedded Librarian
- ② 学術情報支援部門の構築

# Embedded Librarian

- 欧米の医学を中心とした研究図書館  
研究，教育プロジェクトのチームの一員

文献探索，情報提供の専門職

↓

学術コミュニケーション，  
データ管理，著作権等の知識を  
持ち，支援も可能な形に拡大

# Embedded Librarian

- 普及してこなかった要因

専門家としての位置づけが困難

個別プロジェクト対応がなじまなかった



- 新しい専門職としての位置づけが課題

# 学術情報支援部門の構築

## ●大学全体としての研究支援

研究データ保管用プラットフォーム構築

研究データ管理計画の義務化



研究成果DB, インパクト評価,  
研究者の成果のOA状況の把握,  
外部資金とのリンク, 購読雑誌との関係  
……etc

# 学術情報支援部門の構築

- 現在の図書館だけではできない
  - ・既存部門との協力では不十分
  - ・新たな協働プロジェクトとして立ち上げることができるか

# オープンサイエンスへ

- 大学でのデータ管理, 保管  
多様なsmall dataの集積



- 研究分野ごとのデータ公開, 共有  
大規模な研究プロジェクト等でのみ実現



両者の相互補完的関係の構築？